

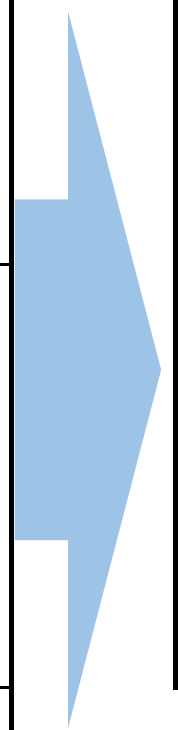
R3年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (IPPPO うめな園) 作成日時 (年 月 日)

代表	施設長	本部
印		

R2年度 改善への取り組み	支援者の資質向上のための研修時間の確保/地域社会との交流/保護者会を開催し保護者の連携をサポートする/療育活動を具体的に見て頂けるようにタブレットを活用していく/就学先のイメージが持てる情報提供の場を設ける
今年度の施設目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ベアレントトレーニングを学び、相談会等を通して保護者が育児を楽しみ自信を積み重ねていけるようにする。 ・日々の感覚遊び（感覚統合）と合わせて、週3回は同社他施設（はったばた園）での、運動遊びを通し体幹を鍛えていく。 ・お便りなどの文面だけでなく、日々のお子様の表れを映像（タブレット）を使用しより具体的に伝え、保護者と成長の喜びを共感できる機会を増やし喜びを積み重ねていく。

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の配置数、専門性は適切である。 ・外階段等に手すり、スロープ等の設置がされていないため検討し改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者側では、部屋の構造化や個別の生活シナリオにより、適切な人数での活動スペースを十分に確保している。
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に引き続き職員が参画している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様、子どもの障害によって、1階、2階と分かれている。支援者は個々の成長を正確に把握し支援を行っている。
適切な支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染拡大により、予定していた家族支援・地域支援の具体的な支援や外部機関との交流が出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に就学前の子を中心に、三島市立 南幼稚園との交流会を開催予定。 ・防災意識を高めるため、三島消防署の訪問予定。 ・11月に三島警察署 交通指導課による交通教室で、交通ルール、マナーを学ぶ機会を予定。 *コロナの感染状況を見て、外部との交流を検討中。
関係機関や保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関や保護者との連携は取れている。 ・家族支援プログラム（ベアレントトレーニング等）が行われていない。 ・保護者会では学校教育課より就学に向けての話をしていただき、保護者の就学への不安を軽減していき会を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベアレントトレーニングは、コロナ感染拡大により講習会の開催がなく参加出来ていない。
保護者への説明責任等	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省をふまえて開催を予定していたが、コロナの感染拡大により、保護者同士の連携が支援されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会、懇親会はコロナの為、中止、延期をしている。 ・放課後等ディサービスについての懇談会を7月に開催予定だったが、コロナ感染拡大により延期中。 (今期5月1回のみ開催。「作業療法士による、OTとは」) ・コロナの状況を見て、開催検討中。
非常時等の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報 を十分配慮している。 ・緊急時マニュアル等の冊子を配布し、避難訓練の様子はSNSで発信している。 ・静岡県、三島市主導の一斉訓練にも積極的に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生を想定した訓練は、引き渡し訓練/火災/地震/水害とこれまでに、昨年度は年6回。 今年度は3回開催している。 ・コロナ関連についての情報はその都度提供している。 ・ラインワークス登録により、緊急時の連絡はよりスピーディに行える様取り組んでいる。(コロナ感染についての情報を一斉送信している)



分析検討してみたの事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> ・部屋の構造化、個別の生活シナリオにより、各エリアでは適切な人数の子ども、支援者で療育活動が行われている。 ・障害の特性に合わせて支援者の人数を決め、個々に合わせた丁寧な支援をしている。 ・机上での活動ばかりではなく、体幹を鍛えるために同社他施設を利用し週3回、身体の発達を意識した活動の時間を設けている。 ・生活シナリオの中に、個々に合わせた感覚統合のプログラムを入れ、毎日実施している。 ・集団活動につなげられる個別活動の取り組み。(ルールのある活動・ごっこ遊び・言葉のやりとり等を個別活動に取り入れていく) ・専門家におけるコンサルテーションや、リモート研修会が増えたことで職員の研修会参加が増えスキルの向上に繋がっている。 ・子どもだけでなく、保護者の気持ちに寄り添い信頼感を高めスタッフ間で情報共有をすることで支援の統一化をはかっている。 ・1対1の個別活動から、個々の課題領域を決めアセスメントをした上で、自立に繋げていく取り組みを行っている。 ・OTが常動している中で、専門的視野にてこの発達を分析し、共有してる。

分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・常勤以上の定期的なミーティングでは、正しい障害特性の理解を身につけ、個々の発達の状況等を共有し、より細やかな支援に繋げていく。 ・作業療法士との情報共有の場を定期的に設け、スタッフが専門的な視点を持てるようにする。 ・引き続き、新人スタッフは現場に入る前に、障害の特性を学ぶ研修を実施する。(リタリコでの研修・リモート研修会への参加) ・スタッフに対しての研修会参加の呼びかけ。(リモート研修) ・子ども達の発達状況に合わせてグループ分けをして、幼/保との交流を積極的に設けていく。 ・コロナ感染状況を注視しながら、地域社会に対して開かれた施設を目指す。 ・事務所の整備(手すり、スロープ等)を早急に検討していく。

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・支援にあたっての技術向上のため、スタッフの外部への研修参加を積極的に提供していく。(アセスメントからの自立課題の設定をし、個々のできる芽生えに対しての見直し・困難な場面でも統一した支援の取り組み・障害特性の理解・個人での研修参加への取り組み) ・親子で参加できる、交流の場を積極的に設けていく。 ・コロナ禍の困難な中でも、zoom等を利用し保護者会や懇談会を開催する手立てを積極的に考えていく。 ・ラインワークスを活用し、保護者への速やかな情報提供を行い連携を深める。 ・就学前の保護者に対して、就学への不安が軽減できるよう情報提供の場を設定していく。 ・就学先のニーズ、保護者のニーズを汲み取り、就学がスムーズになるよう、個々に合わせた就学前の準備を計画的に整えていく。 ・日々の療育活動をより具体的に伝えるために映像を利用し、家族間でお子様の成長を実感できるようにする。 ・幼保との交流活動の経験を通し、子ども達の社会体験、経験に繋げていく。 ・幼保への移行に関して、関係機関からの話を保護者会で情報提供出来る様にしていく。 ・新規利用する保護者合同の説明会を設け、第一回の顔合わせに繋げていく。

自己評価を行っての事業所としての感想など
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に保護者交流の場を取り入れる事が出来ずにいた中で、コロナ禍もあり中途半端になってしまった。きちんとした目に見える形に至らなかった。12月開催に向けて親子と、スタッフとの交流会にむけて早急に対応していきたい。・施設的环境(手すり、スロープ等)具体的に整備するに至らなかったため、早急に対応していきたい。・支援の統一に向けて、スタッフ間でのディスカッションが出来る様になってきているので、支援をより明確化してどのスタッフが見ても、聞いても、理解出来る支援の提示が出来る様にしていく。・スタッフによってスムーズな支援が出来ない事もある為、個の支援に必要な情報共有を大切にしながら今後の支援に繋げていきたい。

来年度の施設目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の気持ちに寄り添い、悩み不安が軽減でき安心できる場を積極的に設けていく。 ・事業所のスタッフを知ってもらい顔の見える支援に繋げていく。
----------	--